令和７年度 音更町教育研究所事業計画

Ⅰ　音更町教育研究所における運営

１ 活動方針

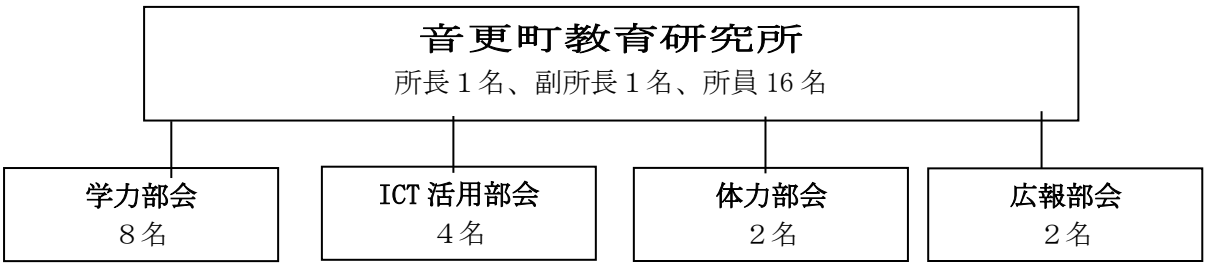
(1)　本町教育の今日的な課題解決のために、教育実践に関する調査研究、教育資料の収集・作成、各学校における研修事業の助成などを行い、学校、関係機関、地域社会と連携・協力し、本町教育の充実・向上を図る。

(2) 本町教育の実態を組織的、系統的に把握し、実証的データを提供する調査に基づいて、教育の理論と実践に関する研究を推進する。

(3) 所員の研修を深め、資質向上に努める。

(4) ICT 機器活用推進のための必要な情報および技能等の収集および取得を目的とし、広く町内教職員の研修を深め、資質向上に努める。

２ 組織構成図



３ 会議の開催

（１）所員会議・研修会の開催　～年７回（４・５・６・９・11・12・２月各１回）

（２）所長・副署長会議　～年２回程度～

（３）所長・副所長・部長会議　～年２回程度

Ⅱ　主な事業計画

１ 指導力向上事業

(1) 健やかな体の育成【体力部会】

- 児童生徒の体力向上と運動習慣の確立に向けた指導者の指導力向上を図る
- 体育科授業の充実と運動習慣の確立に向けた実践例を紹介（関係機関との連携）

(2) 確かな学力の向上【ＩＣＴ活用部会】

- ロイロノートの効果的活用による授業改革の方策を探る研修機会を提供
- 各種コンテンツ及びデジタル教科書の活用実践から、次年度の購入計画の方向性を示す

(3) 豊かな人間性の育成【学力部会】

- キャリアパスポート活用に係るアンケートを実施し、その充実を目指すとともに町研究所としての方向性を提示

２ 音更町児童生徒実態分析事業

(1)「音更町の子どもの学力」発刊　～10 月予定【学力部会】
　Ｒ６年度実施の標準学力調査結果の分析考察
　調査結果分析と考察、授業改善に向けて（小学校算数科）

(2)「音更町の学力の傾向と改善のポイント」発刊　～２月予定【学力部会】
　令和７年度全国学力・学習状況調査結果の分析と考察（調査全教科）

(3)「音更町の子どもの体力と今後の取組」発刊【体力部会】～11 月予定
　前年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の分析、授業改革に向けて

３ 研修活性化事業

（1）授業改革研修会

・ 外部講師を招聘し、授業改革の実践事例の紹介、研修機会の設定

(2) 外部講師派遣

・ 音更町教育推進の重点等に沿った授業研究等に、要請に応じて外部講師を派遣

４ 広報事業【広報部会】

（1）所報「おとふけ」の発行　～年２回（８月・２月）

５ 所員研修（所員の資質向上）事業

（1）「十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究員」の派遣・協力

（2）「道東地区教育研究所所員研修会」への派遣　令和７年 10 月３日　中標津

（3）「研究発表会」（十勝教育研究所主催）への派遣　令和８年２月　十勝教育研修センター

（4）情報収集等、研究会等への所員派遣

Ⅲ　活動のまとめ等

１　「音更町の学力の傾向と改善のポイント」（10 月発刊）

２　「音更町のこどもの学力」（2 月発刊）

３　「音更町の体力と今後の取り組み」（11 月発刊）

４　所報「おとふけ」（８月・２月発行）

令和７年度　士幌町教育研究所　事業の概要

１　運営の目標

（１）「士幌町の教育の特色」に基づき、「生きる力」を身に付けたたくましい子どもの育成に寄与する。

（２）教育研究を総合的な見地から立案し、計画的、実証的、科学的な研究を進める。

（３）十勝管内外の教育研究所や教育関係機関との連携を図り、研究の深化と交流に努める。

２　運営の方法

（１）教育に関わる今日的な課題について、各部会を設けて研究する。

（２）学校や関係機関との連携を密接にし、実態や動向を勘案して効果的に進める。

（３）教育関係の資料を広く収集するとともに、各種の教育情報の積極的な提供に努める。

（４）研究成果を研究紀要として発刊し、日常の教育活動における活用を図る。

３　研究事業計画

①　　小・中連携の充実に関わる研究（継続）

保・小・中・高の連携にかかわって（縦と横のつながり）

小・中学校の９年間を見通した教育課程の構想と実現に向け、小学校から中学校への滑らかな接続（つながり）ができるような教育活動を推進する。

① テーマを定め、教職員の交流会を実施する。
※「生活行動」「小学校で身に付けさせる学力」「中学校へ引継ぐ資質・能力」など
※士幌高校教職員との交流も検討

② 中学校教諭による小学生への授業を実施する。（主に６学年）
小・小の交流を企画する。（中士幌小と上居辺小は士幌町複式教育研究会による集合学習を実施）
※外国語専科教諭の活用、理科専科教諭、体育専科教諭の活用
※保・小との交流・連携も視野に

③ 授業（参観日、校内研を含む）や学校行事の公開を周知するなど、相互に参観する機会を設ける。

（２）ＩＣＴ教育の推進に関わる研究（継続）

ＩＣＴ教育にかかわって

町立学校間の連携と統一を図る。

① ＭＥＸＣＢＴの使用について検討し、教職員へ周知・普及
② ニーズに合わせた教職員向け研修会の実施
③ タブレット端末の使用環境の整備、活用状況の調査　等

（３）小学校社会科副読本『しほろ』に関わる研究（継続）

副読本にかかわって

補助資料の改訂、副読本改訂に向けた準備を行う。

① 副読本『しほろ』を今後どのように活用していくのかを検討
② 副読本『しほろ』から教科書中心の指導へのスムーズな移行への周知
③ 副読本『しほろ』の編集作業　等

（４）その他

① 十勝管内教育所連盟共同研究他各種研修会への積極的に参加する。
② 研究所の活動を紹介した『所報』を発行する。
③ １年間の活動をまとめた『研究紀要』を３月に発行する。

４　士幌町教育研究所組織

所　長　舘　　英樹　（中士幌小学校校長）
副所長　山根　由之　（中士幌小学校教頭）
事務局　岩崎　　天　（士幌町教育委員会）

【小中連携部会】
◎加藤　　心　（士幌町中央中）
湯藤　浩二　（士幌小）
仲野　麗子　（士幌町中央中）

＜協力員＞
豊田　絵里　（中士幌小）
中村　早苗　（上居辺小）

【ＩＣＴ教育推進部会】
◎伊澤　　亮　（中士幌小）
佐竹　良将　（士幌小）

＜協力員＞
松村　　深　（上居辺小）
中谷　　駿　（士幌町中央中）
笹川　拓哉　（士幌町中央中）

【社会科副読本部会】
◎土屋　英之　（上居辺小）

＜協力員＞
堀内　克彦　（士幌小）
稲船　文音　（中士幌小）

令和７年度　上士幌町教育研究所　事業計画

1　活動方針

(1) 上士幌町子どもビジョンの具現化を目指し、本町教育の今日的課題の解決に努める。
(2) 各学校の教育実践に資する資料の収集と提供に努める。
(3) 関係機関・団体との連携を図り、事業の円滑な推進に努める。
(4) 所員・学校関係職員の研修を深め、資質の向上に努める。
(5) かみしほろ学園推進本部の方針に基づき、認定こども園・小学校・中学校・高等学校の連携に努める。

2　事業計画

事業内容	詳細
(1) 標準学力検査、icheck の分析・交流	小・中学校での分析結果の交流（３月）
(2) 家庭学習の手引きの発行・改訂	５月に配付、２月に改訂
(3) 学習規律の取組	４月に掲示ポスター（年度の重点課題）を発行し、毎月の児童アンケートで検証
(4) 情報教育	・ＩＣＴ活用とプログラミング教育に係る授業交流と研修会の開催 ・校内でのタブレット利用のルールづくり及びＩＣＴ推進教師による情報モラル教室の実施（年２回） ・町Ｐ連と連携した「ノースクリーンデー」の取組の推進
(5) かみしほろ学の推進	・3・4 年生版郷土読本の見直し ・総合的な学習の時間の教育課程の見直し
(6) iB ノート、キャリア・パスポートの見直し	デジタル化も含め使いやすいノートとなるよう見直し
(7) 十勝教育研究所事業への参加	十勝管内教育研究所所員研修会及び教育講演会等への参加
(8) 共同研究事業への積極的な参加・協力	共同研究員の派遣、研究発表大会への参加
(9) 北海道教育研究所連盟事業への参加	道研連及び道東研への参加
(10) 所員会議の開催	担当者会議を随時開催
(11) 研修会の企画・運営	（R6：「校内研究の推進に係る研修」教科書理解に係る講話を実施）

3　本年度発行予定の研究紀要、まとめ等

(1) 上士幌の子どもの学力
(2) 家庭学習の手引き改訂版
(3) 学習規律ポスター
(4) 校内タブレット利用の心得

4　所員名、所属名、分担

役　職	氏　　名	所　　属	本町所員歴
所　長	坂　下　亮　宏	上士幌小学校長	１年目
副所長	小　野　つかさ	上士幌小学校教頭	３年目
所　員	白　井　佑　奈	上士幌小学校教諭	１年目
所　員	尾　崎　夏　季	上士幌小学校教諭	１年目
所　員	十　家　慎　治	上士幌小学校教諭	１年目
所　員	長谷川　知　英	上士幌小学校教諭	１年目
所　員	新　田　　肇	上士幌小学校教諭	１年目
所　員	尾　崎　寛　明	上士幌中学校教諭	６年目
所　員	田　中　直　人	上士幌中学校教諭	４年目
所　員	田　中　真　紀	上士幌中学校教諭	１年目
所　員	俵　口　修　治	上士幌中学校教諭	６年目
所　員	長　屋　　勉	上士幌中学校教諭	１年目
事務局	大　原　拓　人	上士幌町教育委員会	２年目

5　その他

(1) 教職員アンケートを基に、今日的な教育課題の解決に向けた研修会等を開催し、教職員の資質能力の向上に努める。
(2) かみしほろ学園と連携し、情報の共有を図るとともに、本町の教育課題の解決に努める。

令和７年度　鹿追町立教育研究所　事業計画

１　所員

所　長　増田　　覚（瓜幕小学校）
副所長　渡邊　慎二（瓜幕小学校）
所　員　千葉　春樹（鹿追小学校）
所　員　新田　　遼（瓜幕小学校）
所　員　中田　和行（通明小学校）
協力員　髙嶋　幸太（教育委員会）

所　員　船越　雄人（笹川小学校）
所　員　梅原　翔太（鹿追中学校）
所　員　米山　大喜（鹿追中学校）
所　員　上西　鉄夫（瓜幕中学校）
協力員　シンボ・グレン（教育委員会）

２　活動方針

人間性豊かな児童・生徒の育成を期して、創意に富む地域に根ざした教育研究の推進に努める。

（１）今日的な教育課題に対応した調査研究を行い、各学校の活用に資する。
（２）地域の実態を踏まえ、学習指導や生徒指導上の教育諸課題に応える解決方法手段について調査研究をし、各学校での活用に資する。
（３）学校教育の課題に応える現職教育の充実に努める。
（４）教育実践上の悩みや問題に応えるため、資料の収集や紹介に努める。

３　今年度の事業内容

（１）探究学習の実践的研究
（２）環境教育のカリキュラム研究（とかち鹿追ジオパークと連携）
（３）十勝教育研究所への協力
　＊共同研究・協力員研究の協力
（４）視察研修

4　事業計画（所員会議等）

（1）部会構成

・今年度は部会を一本化し、探究学習と環境教育の双方を全所員が推進していく。

（2）所員会議等各種会議について

各種会議	内容	担当
第1回所員会議 5月20日（火） 町民ホール	＊年間事業計画審議	
令和7年度十勝管内教育研究所所員研修会（陸別町） 7月　3日（木）	＊管内教育研究所所員研修会	全所員参加
第2回所員会議 7月　中旬 町民ホール	探究学習、環境教育にかかわる実践交流および研究を行う。	
令和7年度 道東地区教育研究所所員研修会 （中標津町） 10月　3日（金）		所長・副所長（どちから1名現地参加）＋所員所員オンライン参加
第3回所員会議 11月　上旬 町民ホール	・探究学習、環境教育にかかわる実践交流および研究を行う。 ・町研発表に向けた準備	
第4回所員会議 12月　上旬 町民ホール	・町研における研究の方向性について（町研のふり返り、反省）	
十勝教育研究所研究発表大会 令和　8年　2月　3日（火）		オンライン参加
第5回所員会議 2月　下旬 町民ホール	年度末反省	

5　その他

※教育研究所関係のデータ保存先

Teams　→　小中学校グループ　→　鹿追町立教育研究所　→　ファイル　→　令和7年度

→　所員会議　　→　第○回所員会議

令和７年度　新得町教育研究所　事業計画

１　活動方針

（１）本町における教育の進展改善に資するため、教育研修資料の収集や教育の専門的事項の調査研究を進めるとともに、実践的研修機会および教育実践に役立つ資料の提供に努める。

（２）教育研究所員が研修を深め、本町教育の今日的課題を明らかにするとともに、関係各機関との連携をよりいっそう強め、研究研修の質の向上を目指しその課題解決に努める。

２　事業内容

（１）学校教育の情報化（児童生徒一人一台端末の効果的な活用について）

①児童生徒の ICT 活用能力を高める授業改善

②個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るための ICT の活用

・ＣＡＮＶＡの利活用を推進（所員研修会、町内職員向けに講習会を実施）

・総合デジタル教材「どうしんまな bell」の研修（所員研修会等を実施）

（２）各種調査研究

①標準学力調査の結果データ等の活用の研修

※Ｒ６より各校へ新得町内学校の結果を集約したものを周知

（３）デジタル副読本の活用の推進

デジタル副読本の使用方法についての研修（Ｒ６年度末に完成）

（４）ふるさと教育の充実

①各地区の「ふるさと教育」系統表の推進（Ｒ６年度末に完成⇒Ｒ７からはその都度修正に）

（５）広報事業

①「所報」の発行　№１（９月中旬予定）

№２（３月下旬予定）

＜昨年度の実施日程＞

（６）十勝教育研究所との連携

①共同研究への参加と研究成果の還流（所員の派遣：十勝研究所からの依頼を校長会で調整）

②十勝管内教育研究所連絡協議会総会・所長研修会

期日　令和６年５月 30 日（木）

③十勝管内教育研究所所員研修会

期 日 令和６年７月４日（木）　１３：００～１６：００

会 場 中札内文化創造センター（中札内村東４条南６丁目１番地３）

④道東地区教育研究所員研修会

期 日 令和６年８月 27 日（火）　１４：３０～１６：３０

令和６年８月 28 日（水）　９：３０～１１：５０

会 場 釧路市生涯学習センターまなぼっと幣舞（釧路市幣舞町４番２８号）

⑤とかち教育講演会

期 日 令和６年 11 月 13 日（水）

会 場 Zoom によるオンライン開催

配信側：十勝教育研修センター（幕別町札内暁町 290 番地の２）

受信側：各参加者の勤務先など

⑥十勝教育研修所研究発表大会

期 日 令和７年２月６日（木） 14 時 30 分～16 時 35 分

会 場 Zoom によるオンライン開催

配信側：十勝教育研修センター（幕別町札内暁町 290 番地の２）

受信側：各参加者の勤務先など

（７）北海道教育研究所連盟との連携

①令和６年度第 79 回北海道教育研究所連盟研究発表大会網走大会（予定）

期 日 令和６年８月 29 日（木） １３：００～１６：３０

令和６年８月 30 日（金） ９：４５～１２：１５

会 場 オホーツク・文化交流センター（網走市北２条西３丁目３番地）

※ オンラインでの参加も可能ですが、その場合は視聴のみの予定。

②教育研究所夏季所員研修会

③北海道教育研究所連盟研究発表大会

3　所員の構成と担当　※敬称略

職　名	氏　　名	所属学校	任　　務　・　担　　当
所　長	古村　俊大	屈足南中	総括、渉外
副所長	山西　一樹	屈足南小	事務局、会計、全体統括
所　員	永井　虹香	新得小	副読本、所報、ふるさと教育系統表
所　員	笹井　千晶	屈足南小	副読本、所報、ふるさと教育系統表
所　員	川田　健太郎	新得中	(副読本)、ＩＣＴ、ふるさと教育系統表
所　員	朝日　　誠	屈足中	十研連共同研究員 (副読本)、ＩＣＴ、ふるさと教育系統表
所　員	林　　孝明	富村牛小中	(副読本)、ＩＣＴ、ふるさと教育系統表
会　計	久保沼菜月	教育委員会	会計

4　所員会議・研修会議の計画　第１回会議　５月８日　１５：３０～

回	内　　容	令和７年度期日	備　考
第２回	・研修会研究会　参加対応 ・各事業推進予定について（各担当より） ・研究員委嘱　事業部会	６月１０日（火）	所員向けCANVA研修会を実施予定
第３回	・所員研修会 ・研修会、研究会参加対応 ・各事業推進について（各担当より）	７月　８日（火）	所員向けまなbell研修会を実施予定
第４回	・研修会、研究会参加対応 ・各事業推進について（各担当より）	９月９日（火）	
第５回	・各事業推進について（各担当より）	１０月１７日（金）	
第６回	・各事業推進について（各担当より）	１１月　４日（火）	
第７回	・各事業推進について（各担当より）	１２月　９日（火）	
第８回	・各事業年度反省と次年度に向けて確認	１月２０日（火）	
第９回	・年度末反省、次年度へ向けて	２月２４日（火）	

令和７年度　清水町教育研究所　事業計画

１　活動方針

（１）　地域に根ざした研究所活動を推進する。

（２）　学校及び本町の要望を生かし、各校と連携協力を図り業務を推進する。

（３）　資料・情報提供の充実を図る。

２　事業計画

（１）　今日的な教育課題に関する研究

①　小中一貫教育の充実に向けた取組

・「十勝清水学」の系統性などに関する資料収集及び資料提供

・先進校の視察研修・活動事例紹介

①　教職員研修会の開催

・町内各校や教職員のニーズに応じた研修内容

（特に、デジタル学習基盤の効果的な活用に関する内容）

・実技研修会の開催

（２）　小学校社会科副読本「しみず」の改訂（令和８年度末に完成予定）

①　改訂方針、組織体制及びスケジュールの明確化

②　改訂に向けた研究及び編集作業

（３）研究所の発行物

①　研究所報第６７号（８月予定）

②　研究所報第６８号（１２月予定）

③　研究紀要　　（３月予定）

（４）　所員研修の充実

①　十勝管内教育研究所所員研修会　　７月　３日（木）陸別町

②　第 80 回北海道教育研究所連盟研究発表大会（胆振大会）

８月２８日（木）・２９日（金）伊達市

③　道東地区教育研究所所員研修会　　１０月　３日（金）中標津町

④　とかち教育講演会　　１１月１３日（木）オンライン

⑤　十勝教育研究所研究発表大会　　２月　５日（木）オンライン

⑥　道内・道外視察研修

（５）　道立教育研究所・十勝教育研究所との連携・協力

①　十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究への所員派遣（山内所員（清水中））

②　北海道教育研究所連盟事業への参加、調査の協力

（６）　研究資料及び学校用図書の収集・整理

（７）　所員会議の開催（６月、７月、９月、１１月、１２月、２月　年６回開催予定）

３　所員名・所属名

訳　食	所員名	所属名	
所　長	佐　藤　貴　光	清水町立御影小学校	
副所長	宮　脇　秀　士	清水町立御影中学校	新
所　員	戸　田　恵　文	清水町立清水小学校	
所　員	大　江　陽　子	清水町立清水小学校	新
所　員	栗　林　　壱	清水町立御影小学校	新
所　員	山　内　優　萌	清水町立清水中学校	
所　員	北　林　　孝	清水町立清水中学校	新
所　員	髙　原　悠　輔	清水町立御影中学校	

令和７年度　　芽室町教育研究所　事業計画

１　活動方針

(1)教育研究所員の研修を進め本町教育の今日的課題を明らかにするとともに、その課題解決に努め教育の充実に資する。

(2)教育研究資料の収集や調査研究を進め、町内各学校の教育実践に役立つ資料の提供に努める。

２　事業推進内容

(1) AI 時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育む授業研究～３：７の学びの充実を通して～

①「芽室町学びの基本スタイル」に関する実践検証。　（新　規）

・指導案・単元指導計画・ルーブリック（児童生徒へ評価項目や到達度を明確に示したもの）等の蓄積。

・自己調整学習の具体的実践例～Qubena やロイロノート等活用

②AI ドリル比較検討　（新　規）

・芽室町の児童生徒が現在使用している Qubena をこのまま継続するかどうか他社の教材と比較検討し、児童生徒にとってより良いものを考える。

・夏季休業中（7/23、24、25 あたり）に研究所主催でデジタルドリル講習会を開催し、４社ほどからプレゼンを受ける。

・２学期から１か月間ほど担任や学校が希望するデジタルドリルの体験を行い、どのドリルが児童生徒にとってより良いものかを決定する。

(2)めむろ未来学の検証改善について　（継　続）

○子どもが「ワクワク・ドキドキ・芽室にクギヅケ」になる授業づくりの改善・充実。

・授業研究の促進、及びデータベースへの指導案・資料等の蓄積。

・中学校における LifeisTech を活用したプログラミング教育の推進：総合的な学習の時間や特別活動等における活用例の蓄積。

(3)地域教材のテストのデジタル化　（継　続）

・地域学習書「めむろ学」のデジタル化にあわせて、テストもデジタル版を作成する。

(4)十勝教育研究所共同研究への協力　研究員派遣　（依頼連携）

(5)各種研究会・研修会への参加　（毎年実施）

・道東地区教育研究所所員研修会、十勝管内教育研究所連絡協議会所員研修会への参加

・教育講演会への参加

・十勝教育研究所研究発表大会への参加

・とかち教育講演会、教育講演会への参加

・全道教育研究所所員研修会への参加

・その他各種研究会

・研修会への参加（所員研修　道研、先進地域等への視察研修）

◎所員研修　道研等　　◎先進地域等への視察研修

３　所員の構成と任務

役　職	氏　　名	学　校　名	主　な　業　務　内　容
所　長	吾　妻　昌　三	芽室西小学校	総括渉外 （５）各種研究会・研修会への参加
副所長	野　村　真　実	芽室西小学校	事務局／研究所報の発行　２回 （５）各種研究会・研修会への参加
所　員	小　椋　春　香	芽　室小学校	（１）AI時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育む授業研究 （２）めむろ未来学の検証改善について （３）地域教材のテストのデジタル化 （５）各種研究会・研修会への参加
〃	西　川　祐　平	上美生小学校	（１）AI時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育む授業研究 （２）めむろ未来学の検証改善について （３）地域教材のテストのデジタル化 （５）各種研究会・研修会への参加　先進地域視察研修（愛知県春日井市）
〃	髙　木　　裕介	芽室西小学校	（１）AI時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育む授業研究 （２）めむろ未来学の検証改善について （３）地域教材のテストのデジタル化 （５）各種研究会・研修会への参加
〃	古　髙　明日美	芽室南小学校	（１）AI時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育む授業研究 （２）めむろ未来学の検証改善について （３）地域教材のテストのデジタル化 （５）各種研究会・研修会への参加

〃	森　田　明　香	芽　室中学校	（１） AI時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育む授業研究 （２） めむろ未来学の検証改善について （５） 各種研究会・研修会への参加　先進地域視察研修（愛知県春日井市）
〃	鈴　木　静　恵	上美生中学校	（１） AI時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育む授業研究 （２） めむろ未来学の検証改善について （５） 各種研究会・研修会への参加
〃	渡　邉　優　美	芽室西中学校	（１） AI時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育む授業研究 （２） めむろ未来学の検証改善について （４） 十勝教育研究所共同研究への協力（共同研究員） （５） 各種研究会・研修会への参加
会　計	林　　宏　明	町教育委員会	会計業務

４　本年度発行予定の研究紀要、まとめ等

・研究所報の発行　２回　（８月・３月）

５　令和７年度　事業推進計画

期　　日	曜	研修会名・会議名等	会　　場
４月　１日	火	４月１日付けで委嘱状交付 （１／２年任期）	
５月２２日	木	第１回芽室町教育研究所所員会議	芽室町役場
５月２９日	木	十勝管内教育研究所連絡協議会総会 所長研修会	十勝教育研修センター
６月　３日	火	第１回共同研究員会議	十勝教育研修センター
６月１９日	木	第２回共同研究員会議	Zoom
７月　　日		第２回芽室町教育研究所所員会議	
７月　８日	火	第３回共同研究員会議	十勝教育研修センター
７月　　日	木	十勝管内教育研究所所員研修会	
７月１１日	金	令和6年度北海道教育研究所連盟夏季所員学習会	北広島市（ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ）
８月２１日	木	第４回共同研究員会議	十勝教育研修センター
８月　　日		第３回芽室町教育研究所所員会議	
８月　　日 ～　　日		令和７年度道東地区研究所員研修会	
８月　　日 ～　　日		令和７年度北海道教育研究所連盟大会	
９月　　日		第５回共同研究員会議	十勝教育研修センター
９月　　日		第６回共同研究員会議	十勝教育研修センター
９月　　日		第７回共同研究員会議	十勝教育研修センター
１０月　９日	木	第８回共同研究員会議	十勝教育研修センター
１０月　　日		第４回芽室町教育研究所所員会議	
１１月　　日		第５回芽室町教育研究所所員会議	
１１月１４日	金	とかち教育講演会	
１１月　　日		令和7年度北海道教育研究所連盟冬季所員学習会	
１２月　　日		第６回芽室町教育研究所所員会議	
１月　　日		第７回芽室町教育研究所所員会議	
１月１５日	木	第９回共同研究員会議	十勝教育研修センター
１月２７日	火	第 10 回共同研究員会議	十勝教育研修センター
２月　３日	火	十勝教育研究所研究発表大会	十勝教育研修センター
２月　　日		第８回芽室町教育研究所所員会議	中央公民館

令和７年度中札内村教育研究所事業計画

１　活動の方針

中札内村の今日的な教育課題を受け、その解決のために方策及び教育実践に役立つ資料等の提供を行うとともに、村教育推進に必要な事業の推進に努める。

２　活動の重点

（１）各校が直面している教育上の課題及び地域の要望に基づいた調査、研究や資料の収集、提供に努める。

（２）村及び教育意委員会が推進しようとする実践上の教育課題（教育行政執行方針）の計画、推進の樹立に努める。

（３）学校教育と社会教育との連携の在り方及びその推進について研究を進める。

３　事業内容

（１）研究活動に関する事業

No.	事業	内容
1	小学校社会副読本の整備	副読本掲載資料等の整備
2	今日的な教育課題に関する研究 ・ふるさと教育の研究・推進 ・中札内村にかかわる検定活用	９年間の円滑な接続を見通した「なかさつないがく」の研究・整備 中札内検定の活用
3	小中高連携充実に向けた研究推進 ・教職員向け研修会の開催	教職員向け研修会の開催
4	十勝教育研究所・共同研究	個別最適な学びと、協働的な学びを実現する教育活動の推進
5	家庭教育の充実に向けた社会教育と学校教育の連携推進 家庭・地域と学校との連携推進	ふるさと教育に関する人材・資料等整備
6	所報の発行（年２回）	計画や成果の発信

（２）十勝教育研究所研修活動に関する事業

No.	研修会	期日内容	会場
1	十勝管内教育研究所所員研修会	７月３日（木）	陸別町
2	十勝教育研究所研究発表大会	２月３日（火）	オンライン開催

（３）研究所員と担当

役　職	氏　名	所　属	主な担当事業
所長	菅　原　晴　彦	上札内小学校	教育関する調査・研究、資料収集、研究所運営等
副所長	渡　部　一　博	中札内高等養護学校	小中高連携充実に向けた研修推進等
事務局	内　山　英　俊	中札内小学校	研究所運営、会計、広報活動等
所員	シンボ　郁　子	上札内小学校	ふるさと教育に関する研究、小学校社会副読本の整備等
所員	土　橋　真　理	中札内小学校	十勝教育研究所との共同研究の推進等
所員	山　口　理　子	中札内中学校	ふるさと教育に関する研究、小学校社会副読本の整備等
所員	伊　藤　啓　展	中札内村教育委員会	小中高連携充実に向けた研修推進　二村連携担当等
所員	小　田　大　世	中札内村教育委員会	家庭教育充実に向けた社会教育と学校教育の連携推進等

令和７年度　更別村教育研究所事業計画

１　活動方針

（１） 更別村の教育の今日的課題を明らかにするとともに、学校教育実践上の課題についての調査研究を進め、教育推進の充実に資する。

（２） 各学校の教育実践に役立つ資料等の収集・提供に努める。

（３） 所員の研修を深め、資質や能力の向上に努める。

２　事業計画

（１）幼保小中高及び地域と連携した教育活動の充実
（幼保小中高及び地域と連携した教育活動実践記録の発行）

（２）いじめ、不登校未然防止の研究
（i-check の実施、分析）

（３）ICT 利活用の研究

（４）二村教育委員会連携教職員研修会の実施
令和７年７月３０日（水）中札内中学校

（５）さらべつふるさと学の体系化

（６）十勝教育研究所及び他町村との連携、協力
（十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究員）

（７）各種研究会・研修会の参加
①令和７年度北海道教育研究所連盟総会及び所長研修会
②令和７年度十勝管内教育研究所連絡協議会総会・所長研修会
③令和７年度十勝管内教育研究所所員研修会
④令和７年度二村教育委員会連携教職員研修会
⑤令和７年度道東地区教育研究所所員研修会
⑥令和７年度北海道教育研究所連盟研究発表大会
⑦令和７年度教育講演会
⑧令和７年度十勝教育研究所研究発表大会

（８）所報の発行

（９）研究のまとめ（『更別の教育』）

（☆）十勝管内教育研究所所員研修会　提言

３　本年度の発行予定

（１）所報

（２）研究のまとめ（『更別の教育』）

（３）幼保小中高及び地域と連携した教育活動実践記録

役職	氏　　名	所　　属		業務分担
所長	長　澤　啓　二	上更別小学校	校長	全体総括 会計 幼保小中高等連携 さらべつふるさと学
副所長	山　野　　圭	更別小学校	教頭	所長代行　所報・研究のまとめ さらべつふるさと学　管内研究所所員研修会提言
所員	髙　橋　　純	更別小学校	教諭	ICT 利活用　さらべつふるさと学
所員	堀　井　久　美	更別小学校	教諭	さらべつふるさと学　管内研究所所員研修会提言
所員	原　田　憲　未	上更別小学校	教諭	十勝教育研究所共同研究員 さらべつふるさと学
所員	松　林　一　彦	更別中央中学校	教諭	さらべつふるさと学　管内研究所所員研修会提言
所員	細　野　ゆきえ	更別中央中学校	教諭	i-check　ICT 利活用 さらべつふるさと学
所員	伊　藤　啓　展	更別村教育委員会	指導参事	二村教育委員会連携教職員研修会 ICT 利活用　さらべつふるさと学

○更別村教育研究所　　・所在地：更別村立更別小学校（副所長　山野　圭）
Tel 0155-52-2360　Fax 0155-52-3571

令和７年度　大樹町教育研究所事業計画

１　活動方針

大樹町教育目標の具現化に向けて、大樹町における教育の総合的な調査研究及び学習内容や方法等の開発を行い、大樹町教育の振興に資する。

２　活動の重点

（１）本町教育における今日的な教育課題の解決に向けた方策や教育実践に役立つ資料の提供に努める。
（２）日常の授業実践に結び付く教師の研修活動を支援し、教職員の資質能力の向上に努める。
（３）生涯学習振興のための研究・資料作成の推進に努める。
（４）十勝教育研究所や各教育研究所との連携を図り、教育研究の推進に努める。

３　事業計画

（１）研修活動

①各種研修会･研究発表大会参加
　５月２９日（木）　十勝管内教育研究所連絡協議会総会･所長研修会【十勝教育研修センター】
　７月　３日（木）　十勝管内教育研究所所員~~会議~~研修会（陸別町）
　１０月　３日（金）　道東地区教育研究所所員研修会
　８月２８日（木）・２９日（金）　北海道教育研究所連盟研究発表大会
　２月　３日（火）　十勝教育研究所研究発表大会（全員参加）
②十勝教育研究所との共同研究活動の推進（共同研究員：田村所員）
③所員会議（年間３回開催）
　第１回　５月　８日（木）
　第２回　９月　　日（　）～学調結果交流、共同研究中間報告、公開講座の準備など
　第３回　２月　　日（　）～今年度の反省、次年度へ向けて
④「大樹町教育の日」の共催
　１０月３１日（金）【大樹町生涯学習センター】
　大樹小学校、大樹中学校、大樹高校参加（大樹学発表会、合唱発表など）
⑤大樹町コスモスコンサートの共催

（２）広報活動

①所報「たいき」（１２９号～６月発行、１３０号～３月発行）
②各種関係機関、団体との連携等

（３）研究活動

①研修講座　１１月　　日（　）　※内容未定
②全国学力･学習状況調査の分析（町広報誌にも掲載～小学校１０月号、中学校１１月号）
③標準学力検査の分析
④大樹町生涯学習推進への協力（「大樹町学校の歴史」作成協力）

４　所員名簿

	氏　　名	所　　属	分　担
所　長	大　石　浩　之	大樹中学校	代表・統括
副所長	菅　原　弘　貴	大樹小学校	事務局・会計・研修講座・歴史
所　員	本　田　大　将	大樹小学校	所報・研修講座
所　員	小　室　日向子	大樹小学校	所報・全国学調分析
所　員	森　本　　錬	大樹小学校	所報・学力検査分析
所　員	鈴　木　崇　伸	大樹中学校	所報・全国学調分析・学力検査分析
所　員	田　村　陽　和	大樹中学校	共同研究員・研修講座
所　員	佐　藤　舞　子	大樹町教育委員会	研修講座・所報・歴史

令和７年度　広尾町教育研究所の事業

広尾町教育研究所長　和嶋　康彦

１ 活動方針

（１）広尾町の教育における今日的な課題を受け、課題解決の方策を探り、教育実践に役立つ資料提供に努め、町教育の推進・充実に資する。

（２）所員研修を深め、資質向上に努める。

（３）事業計画を明確にし、互いに連携して業務の迅速な処理に努める。

２ 所員構成と業務分担

職名	氏　　名	所属	担当業務	職名	氏　　名	所属	担当業務
所　長	和嶋　康彦	豊似小	全体統括	所　員	大庭奈穂子	広尾小	生徒指導部
副所長	三木　俊治	広尾小	総務・所報	所　員	黒沼　史佳	豊似小	生徒指導部
所　員	窪　　駿一	広尾中	共同研究	主　事	畑田隆之介	町教委	総　務

３ 今年度の活動

(1)所員会議

ア　年８回開催し、業務の推進を図る。

(2)主催講座(2学期の実施を目途に計画) ※共同研究員による主催講座

＜参考＞

令和５年度	令和６年度	令和7年度
令和6年　1月31日(水) 15:00～ 各校 Zoom にて参加	令和6年11月 18 日(月) 15:00～ 広尾中学校　２階図書室	令和7年〇〇月〇〇日(〇)
講演:「ICT の効果的な活用に係る実践例の紹介」	講演:「無力感、無気力、不登校傾向生徒との関わり」	講演:「不登校対応に求められる学校体制と生徒指導」
講師:札幌市立発寒南小学校教頭　朝倉　一民　氏	講師:社会医療法人北斗　臨床心理士　齋藤　匠真氏	講師:

ア　日　時

イ　演　題　「不登校対応に求められる学校体制と生徒指導」(仮)

ウ　講　師

（３）調査・研究（生徒指導についての講座：年５回程度）

年間スケジュール（案）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
会　議	所員会議①		所員会議②	所員会議③		所員会議④
総　務				所報９０号発刊		
共同研究	共同研究員業務 主催講座に向けた講師選定と内容の詳細確認				共同研究員業務 主催講座の準備等	
生徒指導部	生徒指導提要講座計画①			第１回 生徒指導提要 講座開設 （参集） １時間程度	第２・３・４・５回 生徒指導提要講座開設 （オンライン）３０ 分程度 生徒指導提要講座計画②	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
会　議	所員会議⑤		所員会議⑥	所員会議⑦	所員会議⑧	
総　務						所報91号発刊
共同研究	共同研究員業務 主催講座の開催			共同研究員業務 主催講座の振り返り・次年度に向けて		
生徒指導部	第２・３・４・５回 生徒指導提要講座開設 （オンライン）３０ 分程度（講座回数は十勝教育局と調整） 生徒指導提要講座計画③					

※　その他、必要に応じて調査・研究を行う。

（４）研究所員の資質向上

ア　各種講座・研究会等

・十勝管内教育研究所所員研修会（令和７年　７月　３日（木））
　十勝教育研修センター
・道東地区教育研究所所員研修会（令和７年１０月　３日（金））
　トーヨーグランドホテル中標津）
・とかち教育講演会　（令和７年〇〇月〇〇日（〇））
　日時・場所（未定）
・十勝教育研究所発表大会　（令和８年　２月　５日（木））
　場所（未定）

（５）十勝教育研究所との連携（共同研究員）

ア　共同研究を通した十勝教育研究所との連携・協力

（６）所報による情報発信（総務）

ア　生徒指導実施の上の留意点　等（７月）

イ　「生徒指導提要」第１章「生徒指導の基礎」（全５回）の講座等、事業報告や各種研修会の報告、各校の実践（３月）

４　活動のまとめ

（１）生徒指導提要の理解促進に係る資料（講演会等資料の活用）

（２）所報「ひろお」No.９０、９１

５　研究推進における諸課題

（１）生徒指導観転換に向けた効果的な講座の複数回（年５回程度）実施の計画と推進。

（２）主催講座において講師を招聘し「不登校対応に求められる学校体制と生徒指導」について、内容の具体と講師選定等。

（３）小学３・４年生社会科資料集「ひろお」の方向性の検討。

広尾サンタランドのイメージキャラクター「さーたちゃん」▲

令和７年度　幕別町教育研究所　事業計画

1　活動方針

１　本町における教育の進展改善に資するため、教育研修資料の収集や教育の専門的事項の調査研究を進めるとともに、実践的研修機会および教育実践に役立つ資料の提供に努める。

２　教育研究所員が研修を深め、本町教育の今日的課題を明らかにするとともに、関係各機関との連携をよりいっそう強め、研究研修の質の向上を目指しその課題解決に努める。

2　事業内容

１　研究・研修

⑴　生徒指導の機能を生かした学級・授業づくりの研究・研修

①Ｑ－Ｕを活用した集団づくりに関する研究

②Ｑ－Ｕテストへの理解を深める研修

⑵　学校ＩＣＴ利活用推進に関する研修

①GIGA スクール構想、学校 DX に係る調査研究

②一人１台端末活用推進に係る研究　～　ロイロノートの利活用について

⑶　幕別町の子どもの学力についての研修

①学力調査による分析

②十勝管内教育研究所所員研修会「学び部会」提言

⑷　学校ミドルリーダー育成に向けた研修

①学校教育における諸課題の解決に向けた研修

・小中一貫、Ｃ・Ｓ

・学校地域協働活動　など

２　各種調査研究への協力

３　広報事業

⑴　「所報」の発行　№８６（１０月上旬）　・　№８７（２月下旬）

⑵　「研究紀要」の発行（２月下旬）

４　十勝教育研究所との連携

⑴　共同研究への参加と研究成果の還流（所員の派遣：十勝研究所からの依頼を校長会で調整）

⑵　研修会等

①十勝管内教育研究所連絡協議会総会・所長研修会	５月２９日（木）＊所長参加予定
②十勝管内教育研究所所員研修会（陸別）	７月　３日（木）＊全員参加予定
③道東地区教育研究所員研修会（中標津）	１０月　３日（金）＊所長参加予定
④第 80 回北海道教育研究所連盟研究発表大会（胆振）	８月２９日（金）＊所長参加予定
⑤とかち教育講演会	１１月１３日（木）＊全員参加予定
⑥十勝教育研究所研究発表大会	２月　３日（火）＊全員参加予定

５　北海道教育研究所連盟との連携

⑴　研修会等

①連盟総会及び所長研修会

②教育研究所夏季所員研修会

③北海道教育研究所連盟研究発表大会

6　その他

⑴　研修会等

①「こだまの会」主催の研修会　　セミナー（夏季）／こだま塾（冬季）

②十勝管内教育委員会連絡協議会研究指定校発表会

２月下旬　研修センター

3　所員の構成と担当　※敬称略　　十勝教育研究所共同研究員

職　名	氏　　名	所属学校	担　　当	
所　長	西　田　茂　生	札内北小	新規	総括、渉外
副所長	鎌　田　貴　義	忠 類 中	新規	事務局、会計、全体統括
所　員	我　妻　　隆	幕 別 小	継続	
所　員	高　平　昴　太	白 人 小	新規	
所　員	高　田　三十三	札内南小	新規	
所　員	青　木　克　磨	札内北小	新規	
所　員	小　倉　康　生	幕 別 中	新規	
所　員	遠　藤　宏　一	札 内 中	継続	
所　員	中　山　　開	札内東中	新規	
所　員	佐　藤　絵　里	忠 類 小	新規	

4　所員会議・研修会議の計画（１５：００～）

回	内　　容（昨年度実績）	令和７年度予定
第１回	・辞令（委嘱状）交付 ・令和７年度事業推進について	５月１３日(火)　町教委会議室　15:00～
第２回	・各事業推進予定について ・事業部会	６月　３週ころ　札内コミプラ　15:00～
第３回	・所員研修会 ・各事業推進について（各担当より）	７月　３週ころ　札内コミプラ　15:00～
第４回	・研修会、研究会参加対応 ・各事業推進について（各担当より）	８月　３週ころ　札内コミプラ　15:00～
第５回	・各事業推進について（各担当より）	９月　２週ころ　札内コミプラ　15:00～
第６回	・各事業推進について（各担当より）	１０月　２週ころ　札内コミプラ　15:00～
第７回	・各事業推進について（各担当より）	１１月　２週ころ　札内コミプラ　15:00～
第８回	・各事業推進について（各担当より）	１２月　３週ころ　札内コミプラ　15:00～
第９回	・各事業推進について（各担当より）	１月　４週ころ　札内コミプラ　15:00～
第10回	・各事業推進について（各担当より）	２月　３週ころ　札内コミプラ　15:00～
第11回	・年度末反省、次年度へ向けて	３月　２週ころ　札内コミプラ　15:00～

※会場や時間等については変更の可能性があります。

※「Ｚｏｏｍ」を活用したオンラインでの会議や打合せをおこなう場合があります。

令和７年度　池田町教育研究所事業計画

１　活動方針

（１）池田町小中学校の教育実践並びに授業改善に結びつく資料の収集と情報提供に努める。

（２）教育関係機関、教育関係団体等との連携を図り、事業の円滑な推進に努める。

（３）教育研究所員の研修を通して個々の資質向上を図るとともに、本町教育の今日的課題を明らかにし、教育課題の解決並びに教育の充実に資する。

２　事業計画

（１）研究所の事業

①教育計画、教育内容及び教育方法の調査研究に関する事項
②教育関係資料の収集及びそれらの研究に関する事項
③図書、研究物、研究資料の購入及び編集等に関する事項
④教職員の研究に関する事項　⑤研究相談に関する事項　⑥その他教育振興に関する事項

Ⅰ　小中一貫教育の推進に関する研究

（１）主な活動内容

ア　検討部会での協議内容等の調整（調整会議※年４回）
イ　推進に向けた取組方策の取りまとめ
ウ　小中各校での連絡調整、事業推進体制整備

（２）活動内容の詳細

ア　９年間を見通した教育課程の検討
イ　小中合同研修会の計画、実施（※年２回）
ウ　小中教諭の授業参観の推進
エ　６学年児童の中学校訪問（一部５年生も対象）および中学校登校の計画、実施

Ⅱ　広報事業

①「池田町教育研究所だより」の発行配布（６月・３月）※特別号発行の検討　他

Ⅲ　十勝教育研究所との連携

①共同研究への参加と成果の環流（共同研究員として所員派遣）	
②十勝管内教育研究所連絡協議会・所長研修会	５月 29 日(研修センター)
③十勝管内教育研究所所員研修会	７月　３日(陸別)
④道東地区教育研究所所員研修会	１０月　３日(中標津)
⑤道研連研究発表大会	８月 28 日～29 日(伊達)
⑥十勝教育講演会	１１月１３日
⑦十勝教育研究所研究発表大会	２月　３日

Ⅳ　研究に関する資料収録

①研究に関するまとめ（２月下旬）

３　池田町教育研究所所員

所長　稲葉　珠樹（池田小校長）　　次長　田村　浩文（池田小教頭）
所員　片岡　真伸　　名越　正道　　大浦　泰貴（池田小教諭）
所員　渋谷　　真　　織田　勇進　　小山内美咲（池田中教諭）

令和７年度　豊頃町教育研究所事業計画

１　令和７年度　豊頃町教育研究所運営方針

（１）研究主題

「報徳のおしえ」を礎とした豊頃の特色ある教育資源を生かし、
知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育む学校教育の在り方を求めて

～学校教育と家庭及び地域における実践・評価の一体化の探求～

（２）基本方針

豊頃町の今日的な教育課題を受け、その解決のための方策及び各校の教育実践に有用な教育研究に努める。

（３）活動重点

① 町教育行政執行方針の具現化に向けた調査・研究
② 町内各校の教育上の課題・要望等に応える資料収集及び提供
③ 町内小中学校の教育連携、連接の在り方の探求
④ 十勝管内外の教育研究機関との連携及び研修機会の活用

（４）会議

① 定例会議：年５回程度
② 臨時会議：必要に応じて所長が召集

２　年度教育研究事業及び担当

	業務	主な内容	担当
１	学力・体力向上に関わる研究	・家庭学習の手引き（令和７年度改訂版）の活用推進 ・確かな学力の定着化の方策研究	所長・次長 所員
２	小中連携に係る情報収集・資料提供	・管内小中連携先進実践校の活動例交流 ・道内外の義務教育学校への視察研修斡旋	所長・次長 所員
３	報徳のおしえが生きる授業支援	・授業づくりを支援する情報提供 ※過去実践事例の系統的まとめ等	所長・次長 所員
４	ＩＣＴ活用教育について	・ＩＣＴ機器を活用した授業づくりを支援する情報提供 ・教育実践の交流	所長 所員
５	社会科副読本	・令和7年度改訂版社会科副読本の活用と実践交流	所長・次長 所員
６	広報活動の実施 研究紀要の作成	・7月：巻頭言、活動方針、業務内容、所員紹介 ・3月：巻頭言、活動報告、情報提供等 ・3月：豊頃町の教育　発刊	次長 所員
７	十勝教育研究所共同研究	・研究員としての所員派遣	

３　令和７年度管内・道東等教育研究所関連事業について（予定）

① 十勝管内教育研究所所員研修会　７月３日（木）陸別町
小副川所長・中野次長・所員　参加

②第 80 回北海道教育研究所連盟研究発表大会（胆振大会）
兼 第 67 回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会
８月２８日（木）～８月２９日（金）だて歴史の杜カルチャーセンター
（Zoom ハイブリッド開催）　対象／全所員

③道東地区教育研究所所員研修会
１０月３日（金）中標津町トーヨーグランドホテル
小副川所長・中野次長・所員　参加

④ 十勝教育研究所講演会
１１月１４日（金）　対象／全所員

⑤　十勝教育研究所研究発表大会
令和８年２月３日（火）　対象／全所員

※十勝管内教育研究所連絡協議会総会・所長研修会
令和７年５月２９日（木）開催

４　豊頃町教育研究所組織構成

所　長	小副川　浩（大津小　校長）	所　員	竹中　　悠（豊頃中　教諭）
次　長	中野　真一（豊頃小　教頭）	所　員	添田佑生子（豊頃中　教諭）
所　員	川島　有代（豊頃小　教諭）	事務局長	森　　直史（教育委員会教育課長）
所　員	小野　泰雅（豊頃小　教諭）	事務局次長	福田　　茂（教育推進員）
所　員	金　　隆義（大津小　教諭）		

令和７年度　浦幌町教育研究所事業計画

１　活動方針

（１）小学校社会科郷土読本「うらほろ」の編集の推進（２年計画）（令和６～７年度）

（２）浦幌の子どもの学力向上の推進

（３）所報を継続発行し、教育関連の情報提供や研究所事業の啓発に努める。

（４）教育関係機関の研究に積極的に参加し、各校に還元する。

２　事業計画

（１）小学校社会科郷土読本「うらほろ」の編集の推進（２年計画）（令和６～７年度）

浦幌町教育委員会では、学習指導要領のもとで小学校３年及び４年生が教科書と併用して浦幌町を学ぶ社会科郷土読本を発行してきた。令和６年度より郷土読本を作成し、今年度郷土読本（冊子版にＱＲコードを掲載）を完成させる。

（２）学力分析資料「浦幌の子どもの学力」の発行

浦幌町では、長年にわたり教研式標準学力検査（ＣＲＴ－Ⅱ）を実施し、その結果をまとめ、実態把握を務めるとともに、学習指導の改善・充実を図ってきた。令和５年度より東京書籍の標準学力調査に移行したことにより、新しく浦幌の児童生徒の学力に関して分析する必要になった。分析資料の発行は全町規模で子どもの学力を把握することができ、各学校において授業改善や校内研修の資料として活用できるように調査・研究していく。

（３）浦幌町教育研究所「所報」の発行

教育研究所の事業内容の理解、教育情報の提供、学校間の連携に役立てる。

（４）初等中等教育段階における生成ＡＩの利活用について

急速に普及している生成ＡＩについて、学校現場における活用のあり方を検討するため、教職員自身がその仕組みや特徴を理解できるよう、研修会を実施する。

（５）浦幌町教育研究所の事業内容および組織等の見直しと検討

教育研究所の事業内容、運営組織について検討を加え、望ましい運営を図る。

（６）十勝研究所および他町村研究所等との連携、協力

各研究所と連携し、研究交流を行うとともに、十勝教育研究所の共同研究に対する協力を行う。

（７）各種教育研究所研修会への参加

・小中一貫コミュニティ・スクール先進自治体（学校）との交流

・十勝管内教育研究所所員研修会　兼　道東地区所員研修会

・教育講演会　・十勝教育研究所研究発表大会　・その他

３　本年度発行予定の研究紀要および研究資料

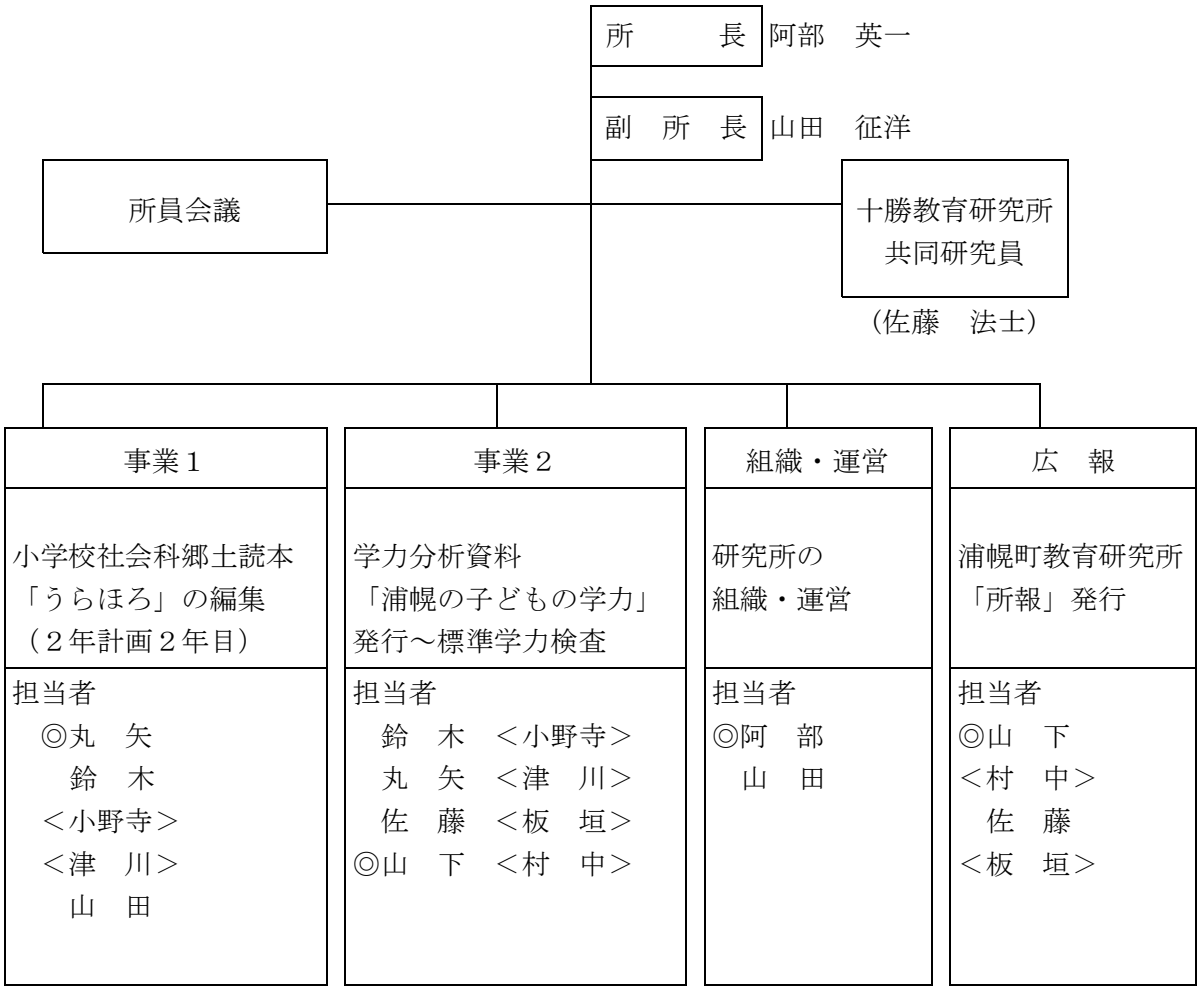
（１）小学校社会科郷土読本「うらほろ」の作成（２年計画１年目）

（２）学力分析資料「浦幌の子どもの学力」発行

（３）浦幌町教育研究所「所報」の発行（年２回～７月、３月）

令和7年度　運営機構及び業務分担

＜運営機構＞



＜　　＞は協力員　　◎はリーダー

所員・所属・業務分担

氏　　名	所　属　学　校	業　務　分　担
阿部　英一	上浦幌中央小学校	全体統括、研究所事業内容及び組織の見直し 十勝管内教育研究所連絡協議会総会・所長研修会、道東地区教育研究所所員研修会、十勝管内教育研究所所員研修会
山田　征洋	上浦幌中学校	所長代行、全体事務局、会計、小学校社会科郷土読本に係る業務
鈴木　和博 ＜小野寺留衣＞	浦幌小学校	①小学校社会科郷土読本に係る業務　②学力に係る業務
佐藤　法士 ＜板垣　知志＞	浦幌中学校	①所報に係る業務　②十勝教育研究所　共同研究員 ③学力に係る業務
丸矢　　進 ＜津川　博行＞	上浦幌中央小学校	①小学校社会科郷土読本に係る業務　②学力に係る業務
山下　沙耶 ＜村中　鉄也＞	上浦幌中学校	①所報に係る業務　②学力に係る業務

※共同研究員ローテ（浦小→浦中→中央小→上浦中）

※R6上浦中→R7浦中→R8浦小

令和７年度　本別町総合教育研究所　事業計画

１　目　的

生涯学習の視点に立った総合的な調査研究を行い教育の振興を図る。

２　活動方針

（１）今日的課題や状況を的確に把握・洞察し、本別町教育の充実を期す。
（２）町民や各学校、関係機関の要望や意見等をとり入れながら調査・研究を行い学校教育及び社会教育推進の資料を提供する。
（３）管内等の各研究団体と交流し、所員自らの研修に努めるとともに研究所の適切な業務推進を図るよう努める。

３　事業計画の概要

（１）学校教育部

①本別町の児童・生徒の学力向上の取組支援
②本別町小・中・高等学校の総合的な学習の時間の検討
③所報『還流』の発行（１０月・２月予定）
④既刊紀要・研究成果等の活用促進、研究図書の購入・管理
⑤十勝教育研究所との連携（共同研究員）
⑥所員研修の推進
⑦その他

（２）社会教育部

①「ほんべつ学びの日」の推進に関する改善・充実
②社会教育活動先進地等の視察・研修
③十勝教育研究所との連携
④その他

４　所員名一覧

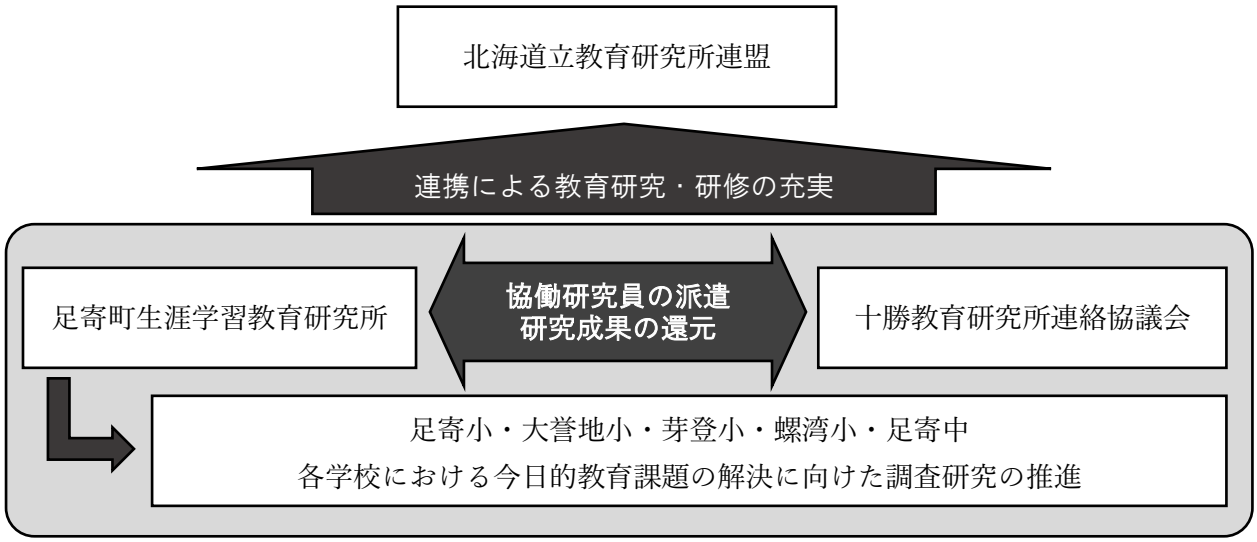
職　名	氏　　名	学 校 名 等	所　属・業　務　分　担
所　長	宮　崎　　哲	勇足小学校	学校教育部
副所長	松　原　宏　一	勇足小学校	社会教育部
所　員	幾　島　佑　真	本別中央小学校	学校教育部
〃	佐　藤　幸　江	勇足小学校	学校教育部
〃	菅　原　賢　也	本別中学校	学校教育部
〃	下　前　滋　史	勇足中学校	学校教育部　共同研究員
〃	志戸田　由美子	社会教育委員	社会教育部
〃	重　堂　法　人	社会教育委員	社会教育部
〃	福　良　亜　子	社会教育委員	社会教育部
〃	森　本　　聡	本別町教育委員会	学校教育部（教育指導員）

５　　学校教育部所員の派遣

（１）十勝管内教育研究所連絡協議会総会　　＜所　長＞
（２）十勝管内教育研究所所員研修会　　＜全所員＞
（３）教育講演会　　＜全所員＞
（４）道東地区教育研究所所員研修会　　＜全所員＞
（５）十勝教育研究所研究発表大会　　＜全所員＞

令和７年度足寄町生涯学習教育研究所　事業推進計画

１　足寄町生涯学習教育研究所事業推進の構図



２　足寄町生涯学習研究所の役割　～「人づくりの町　足寄町」の構想を受けて～

平成９年３月 13 日に制定された条例に基づき「足寄町生涯学習教育研究所」として、足寄町教育目標の具現化を図るものとする。そのため、第６次足寄町教育振興計画に基づき、重点目標である「生きる力を育む教育環境づくり」の実現に向け、調査研究を行うこととする。

３　令和７年度足寄町生涯学習教育研究所研究主題

【北海道立教育研究所連盟】

○　一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現に向けて

【足寄町の子どもに育む資質・能力】

○　多様な他者との関わりを基盤としたコミュニケーション能力の育成

【足寄町生涯学習教育研究所】

○　小中高 12 年間を見通した足寄の子どもたちの学びの充実
　～資質・能力の育成に向けた校種間連携の在り方～

４　取組内容

・小中高 12 年間を見通した学びのプランの策定
・副読本のデジタル化に向けた調査研究（２か年計画）
・刊行物の発行
・生涯学習に関すること
・十勝教育研究所との共同研究推進

５　足寄町生涯学習研究所　所員・協力員一覧

所　長　児玉　祥洋（大誉地小）	副所長　須田　慎二（芽登小）	所　員　岸山　知歩（足寄小）
所　員　辻本　一貴（足寄小）	所　員　西田　智草（足寄小）	所　員　三瓶　貫太（足寄中）
所　員　向　　学斗（足寄中）	所　員　毛利　尚明（委員会）	所　員　天野　莉那（委員会）
所　員　高井　聖良（委員会）	協力員　柏木　　歴（大誉地小）	協力員　関　　大伸（芽登小）
協力員　佐藤　琴美（螺湾小）		

足寄町の子どもたちの 12 年間の学びプラン（生涯学習研究所用）

足寄町の子どもに育む資質・能力

「多様な他者との関わりを基盤としたコミュニケーション能力の育成」

学びプラン策定の目的
足寄町の子どもたちに育む資質・能力を確実に身に付けさせるため、関係機関が同じベクトルで、各自の特色を発揮しながら、効果的で実効性のある取組を行うことを目的とする。

	生涯学習研究所の役割	身に付けさせたい資質･能力
高等学校		社会に羽ばたく資質・能力 ・プレゼン力 ・課題解決方法の活用 ・多様な他者との協働
中学校		義務教育 9 年間のまとめ ・指導事項の定着 ・希求援助能力 ・課題解決方法の選択 ・多様な他者との交流
小学校		確実な中学校への接続 ・指導事項の定着 ・主体的に学習に向かう姿 ・課題解決方法の定着 ・多様な他者との対話

各段階における取組指標

足寄高等学校の課題と取組の方針

・言語能力の育成
・地域課題発見力の育成

足寄中学校の課題と取組の方針

・自己決定する力の育成
・表現力の育成
・受動的な態度の改善

町内小学校の課題と取組の方針

・他者意識の醸成
・基礎学力の定着

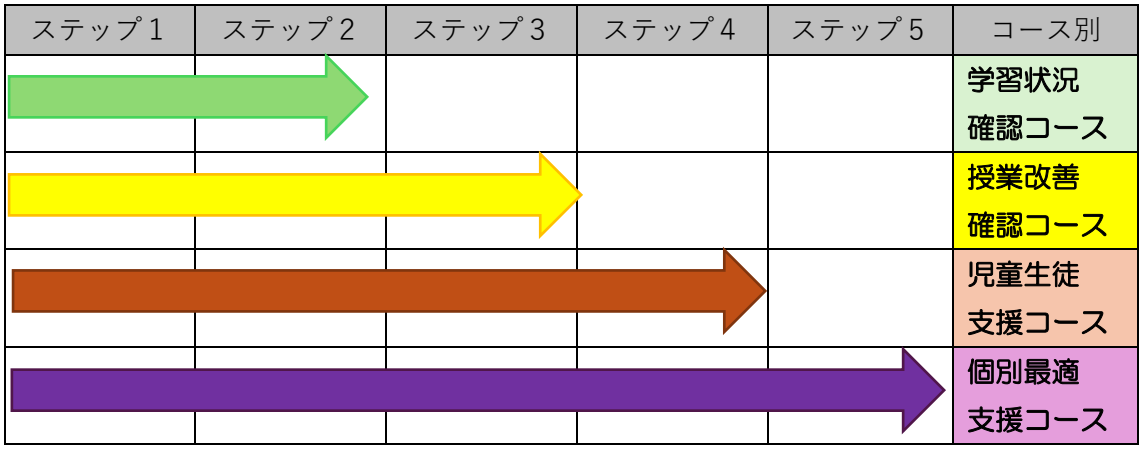
足寄の子どもたちを誰一人として取り残さないために

足寄で学ぶ子どもたちが、将来にわたって自信をもって羽ばたくために、各学校では、一人一人の学習状況をしっかりと把握し、学校全体での授業改善を進めることが大切です。そのためにも、毎年実施される「標準学力検査結果」をエビデンスとして、足寄町内の各学校が、共通の視点として分析を行い、足寄町の子どもたちに、確かな学力を育んでいきましょう。

【分析のポイント】

スッテップ１～ステップ５に示した手順により、全教職員で自校の子どもたちの状況を把握し、その状況を全教員で把握し、授業改善の方向性を見いだしましょう。

【活用にあたって】



【コース別の特徴】

◆学習状況確認コース

→学校全体を通して、学年や教科において、どのような特徴があるのか把握し、重点的な指導内容の精選を図りましょう。

◆授業改善確認コース

→児童生徒に対し、３観点がバランスよく育まれているのかを把握するとともに、妥当性のある評価により、児童生徒の学習状況を把握しましょう。

◆児童生徒支援コース

→上記２コースの分析に加えて、児童生徒一人一人の学習状況を把握し、学習者主体の授業の在り方について、共通理解を図りましょう。

◆個別最適支援コース

→経年比較データをもとに、児童生徒一人一人の変容を明らかにし、学習意欲を育むための手立てとしましょう。

ステップ１

学校全体の状況を客観的に見てみましょう

○確認するデータ

- **『学校全体表』（学年）**

○ポイント

～その1～

学校全体表（学年）を参照し、自校における各教科の学習状況のバランスを把握しましょう。

～その2～

学年による教科の状況について把握しましょう。

～その3～

学年ごとの、各教科の得意・不得意の傾向を把握し、各学年の特徴的な学習活動の取り組み方などを、学校全体で情報共有しましょう。

～その4～

不得意な部分を解消するための方策を検討し、学校全体で共有しましょう。

ステップ２

教科別の自校の学習状況の系統を把握する

〇確認するデータ

- **『学校全体表』（教科）**

〇ポイント

～その1～

各教科を学年の系統で見たときに、学年によってばらつきがないか確認しましょう。

～その2～

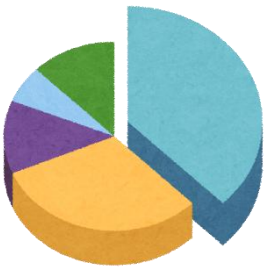
ばらつきがあった場合は各教科における指導の系統性や学年の学習状況などについて確認しましょう。

～その3～

自校の校内研修等において、重点的に取り組んだことが成果として表れているのか、それとも十分な成果が出なかったのか、データをもとに検証を行い、全職員で確認しましょう。

～その4～

ばらつきの理由について、学年特有の課題なのか、指導の工夫が必要なのか全職員で明らかにしましょう。



ステップ３

各学年ににおける観点別の状況を確認しましょう！

〇確認するデータ

・『全体表』（観点別）

〇ポイント

～その1～

　３観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）について傾向を把握することにより、３観点をバランスよく育んでいるかどうかを学校全体として確認しましょう。

～その2～

　3観点をバランスよく育むための単元の計画において、重点的に指導する観点を明確にしましょう。

～その3～

　日常の授業における観点別評価の在り方について、全教職員で共通の認識を持って妥当性のある学習評価を行うための校内研修を充実させましょう。

ステップ４

個に応じた学習支援の方法を検討しましょう！

○確認するデータ

・各学年、各教科クラス別成績一覧

○ポイント

～その1～
　児童生徒一人一人のつまずきや得意な部分を把握しましょう。

～その2～
　その結果、十分な理解がないと判断される部分については、個に応じたプランを策定し、概ね満足できる状況に至るよう、見守ってあげましょう。（誰一人取り残さない）

～その3～
　また、繰り返しの取組により、着実に理解を深めることができるよう、学習状況が確認できる工夫を校内で検討しましょう。

～その4～
　学年や教科により、苦手さが浮き彫りになった部分は、教育課程編成届等を活用し、次年度に向けて重点的に指導するなどの配慮を考えましょう。

ステップ５

児童生徒個々の学力の推移について共有しましょう！

○確認するデータ

- 個人の成績の経年比較（がんばりグラフ）

※有料ですが、足寄町で申し込みをしています。

○ポイント

～その1～

　がんばりグラフを活用することで、個々の経年変化を児童生徒と共有することができます。成長を認め、次に繋がる声掛けをしていきましょう。

～その2～

　経年変化を確認後、学習に向かう姿の変容が見られた時、主体的に学びに向かう姿としての評価材料になります。

令和７年度　陸別町教育研究所　事業計画

１　活動方針

（１）陸別町の各校が直面する教育課題の解決に役立てるため、調査・研究事業を推進する。

（２）研究所事業の内容充実と所員の資質向上を図るため、管内、道東で開催される研究所員等を対象とした研修事業に参加する。

２　事業計画

（１）陸別の子どもの学力調査

＊　算数・数学に続き、他教科でも学力検査等の結果を基に、系統表を作成する。

＊　調査結果については、教育課程の改善資料として各学校に提供する。（平成２１年度より）

（２）陸別の子どもの体力調査

＊　小・中学校での体力テストの結果を基に、傾向を調査して、その実態を把握する。

＊　調査結果については、活用できるよう各学校に配布する。

（３）陸別町小・中学校一貫教育推進事業への協力

＊　小・中学校一貫教育に関する資料を収集して各学校に提供する。

（４）十勝教育研究所事業への協力・・・中学校主体

＊　永山　　凜　（陸別中学校）：十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究員

（５）「研究所だより」の発行（７・３月予定）

（６）研究所員等を対象とする研修会への参加

（７）家庭学習の手引き・『陸別学習プラン』『陸別生活プラン』活用の検証

（８）ＩＣＴ教育の推進

＊　小中一貫教育推進委員会研修部会との連携を深め、ＩＣＴ活用に関する情報を収集する。

３　本年度発行予定の研究紀要、まとめ等

＊　事業計画（１）（２）に関する資料を作成予定

４　所員名・所属名・分担等

職　名	氏　　名	所 属 学 校	主　な　分　担　業　務
所　長	小　田　浩　平	陸別小学校	全体統括
副所長	後　藤　昭　史	陸別小学校	庶務，記録集作成，所報の発行
所　員	清　水　達　登	陸別小学校	調査，資料作成，共同研究員
所　員	永　山　　凜	陸別中学校	調査，資料作成

※令和６年度より陸別町教育研究所の所員は小中一貫推進委員会研修部員で構成する。

５　その他（予定）

４月２４日（木）　北海道教育研究所連盟総会（遠隔）
５月１２日（月）　第１回所員会議
５月２９日（木）　十勝管内教育研究所連絡協議会総会・所長研修会
６月　４日（火）　第１回十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究員会議
６月２６日（木）　第２回所員会議（陸別小・校長室を予定）
７月　３日（木）　十勝管内教育研究所所員研修会（陸別）
７月　　日（　）　所報「りくべつの教育」第１号発行予定
７月１１日（金）　道研連夏季所員研修会（遠隔）
8月28日(木)～8月29日(金)　北海道教育研究所連盟研究発表大会（胆振大会）
９月　　日（　）　第３回所員会議
１０月　３日（金）　道東地区教育研究所所員研修会（根室大会）

１１月　　日（　）　道研連冬季所員研修会（遠隔）
１２月　　日（　）　第４回所員会議
２月　　日（　）　十勝教育研究所研究発表会
２月　　日（　）　第５回所員会議（報告会）「１年間の反省と次年度に向けて」
３月　上旬　　所報「りくべつの教育」第２号発行　予定

※随時、部員・協力員による部会を行う。（開催日時について事務局に報告する）
※各種所員研修会・研究発表大会は、全員参加を基本とする。

■令和７年度　帯広市教育研究所　事業計画

１　運営方針

教育研究を総合的な見地から立案し、その計画に基づいて実証的・科学的に研究を進める。また、各学校や教育関係機関と密接に連携を図りながら、市民の教育的要望に応えるよう努める。

２　主な事業計画

(1) 学習指導・評価に関する研究

「帯広の子どもの学力」に関する研究…標準学力調査の結果をもとに、基礎・基本を活用する能力を高める指導の在り方に関する実践的研究の推進

(2) 社会科副読本及びおびひろ市民学に関する研究

小学校第３・４学年 社会科副読本「おびひろ」に関する研究、及び「おびひろ市民学」に関わる指導方法の研究の推進

(3) 学級経営に関する研究

学級活動の充実に係る研究や資料作成、及び特別支援教育の視点を踏まえた学級経営の在り方等に関する研究の推進

(4) 情報教育に関する研究

１人１台端末の効果的な活用に係るアプリ等の作成や情報発信、及び学校へ出向いての研修出前講座の開催

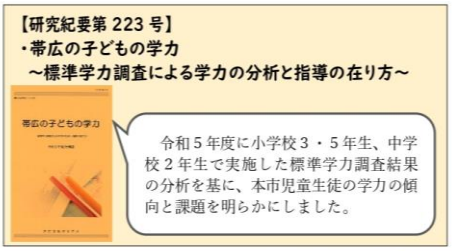
(5) 生徒指導に関する研究

児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の分析及び学校個票に係る資料作成への協力

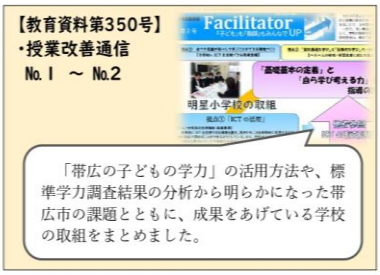
(6) 教職員の研修に関する研究

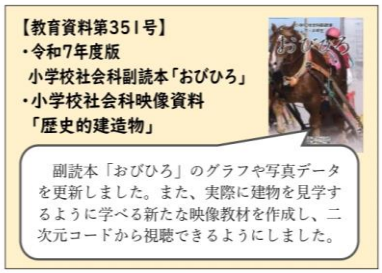
学校の現状や教師のニーズに即した人間力等も含めた資質能力の向上に向けた研修プログラムに関する研究の推進（夏季・冬季休業中の研修やエキスパート教職員実務研修等の立案）

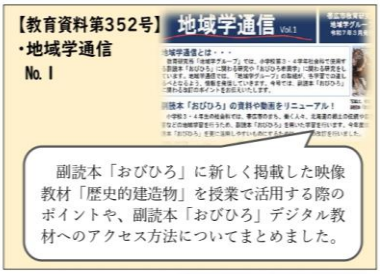
３　本年度発行予定の研究紀要等

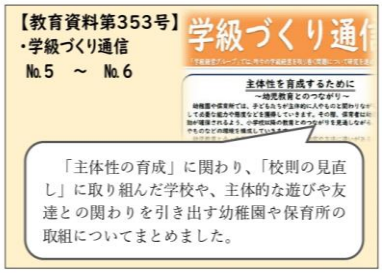


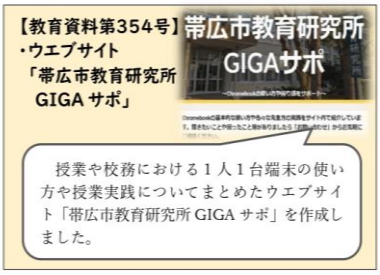
※左は、令和６年度に発行した研究紀要及び発行資料等です。令和７年度についても、事業計画に基づいた調査・研究の成果を研究紀要等に整理して発行する予定です。

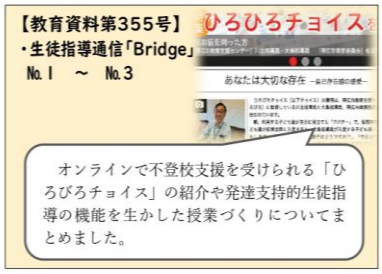












４　所員名、所属名、分担等

職名	氏名	所属
所長	渋谷康治	市教委
指導主事	永井悠介	市教委
指導主事	佐々木卓郎	市教委
調査研究専門指導員	池下栄里子	市教委
事務員	橋本民枝	市教委
主任所員	中正憲	南町中
所員	佐藤太紀	帯広小
	村居拓郎	明星小
	中川喬介	緑丘小
	菅原亜希	北栄小
	小黒恵二郎	東小
	宮下承久	稲田小
	塩見紫織	豊成小
	西保美紀	広陽小
	山田悠介	啓北小
	安田志芳	つつじが丘小
	木下ことみ	帯広第五中
	浜田康司	帯広第八中
	寺島徹	西陵中
	山梨政拓	川西中
	藤原悠大	大空学園
	上野嗣弥	大空学園

（写真）令和７年度教育研究所員辞令交付式

令和7年度　十勝教育研究所　事業計画

十勝教育研究所

○　研究機関としての研究

✧　十勝管内教育研究所連絡協議会　共同研究

管内19市町村の教育研究所と十勝教育研究所が一体となって、授業実践を通した研究を進めます。

「自ら学び続ける子どもを育む研究」　1/2年次
～単元デザインの工夫と学びの自己調整を通して～

ＩＣＴを活用しつつ、カリキュラム・マネジメントを充実させることにより学びを自己調整する力を育みます。

✧　十勝教育研究所　協力員研究

管内の小中学校各1校の協力を得て、協力員2名を委嘱し、授業実践を通した研究を進めます。

「他者を尊重し、責任をもって行動する子どもを育む研究」　2／2年次
～教科横断的な視点に立った授業デザインと意思決定につながる学習展開の工夫を通して～

日常モラルの延長上に情報モラル指導を置き、よりよくＩＣＴを活用しながら、情報活用能力の育成を目指す研究を進めます。

○　関係機関との連携

✧　全国教育研究所連盟

十勝管内を代表する加盟研究所として、発表大会や研究協議会等に参加し、加盟機関相互の連携を深めるとともに、必要な情報を収集・提供します。

✧　北海道教育研究所連盟

十勝管内を代表して連盟委員の役割を担っています。
共同研究に協力するとともに、研究発表大会に参加し、相互の研究成果交流を通して、北海道教育の充実・発展に寄与し、必要な情報を収集・提供します。

✧　道東地区教育研究所連絡協議会

道東地区教育研究所所員研修会に参加・提言するとともに、加盟機関相互の連携を密にして道東地区教育研究の充実を図り、必要な情報を収集・提供します。

✧　十勝管内教育研究所連絡協議会

十勝管内全ての教育研究所との連携を密にし、教育研究の充実を図り、十勝教育振興に寄与します。

○　教育研究相談・資料の提供

✧　教育研究相談

十勝の学力分析を基にした授業改善、調査研究成果を用いた研修などの相談に応じます。

✧　広報誌「十勝教育研究」

学校や個人の取組、町村研究所の紹介、十勝教育研究所の事業、実態調査結果など、最新の情報を冊子やホームページでお伝えします。

✧ **研究紀要**

十勝教育研究所が調査・研究した成果を資料として提供します。今年度より冊子の発行を止め、ホームページでの配信とします。

✧ **学習指導資料「十勝の子どもの学力」**（実践例をホームページで公開）

十勝全体の子どもの学力を分析・考察し、学習指導を改善・充実するための基礎的・実践的な資料を提供します。

✧ **カリキュラム支援センター**（デジタル化の取組も推進しています）

各種教育用図書や各学校・研究所の研究紀要などを教育情報・資料として提供します。

✧ **web サイト**

リニューアルしたホームページの本格運用を始めます。また、LINE を活用し、利用の促進を図ります。

✧ **教育関係職員録**　市町村教育委員会の合冊本として刊行します。

○ **講演会・研修会の開催**

✧ **十勝管内教育研究所所員研修会**（令和７年７月３日陸別大会）

十勝管内における各研究所の今日的課題と役割を明確にし、相互の研究成果の交流を通して研究所員の力量を高めます。

✧ **とかち教育講演会**（令和７年 11 月 13 日）

今年度は、リーゼント刑事で有名な秋山博康氏を講師に、「（仮）少年犯罪の現状、子どもの犯罪防止について」と題した教育講演会をオンラインで実施します。

✧ **十勝教育研究所研究発表大会**（令和８年２月３日）

調査研究成果をオンライン（１人１台接続）で発表します。

✧ **研修講座**「授業づくりⅠ　対話と振り返り」（令和７年７月28日）

「授業づくりⅡ　情報モラル」（令和７年７月30日）

共同研究と協力員研究の成果に基づいた授業づくりの講座です。

○ **業務分担**

職名	氏名	所属	主な業務分担
所長	横山利幸	専任	所務の掌理 道研連、全教連、管内各教育機関・団体との連携
副所長	石丸揚一朗	札内中	調査・研究及び研修事業の統轄、業務推進に関する指導・助言、教育研究相談
主幹	所長兼務		庶務の整理、十勝教育研究所運営委員会の開催、各種会議（モニター会議、調査委員会等）の開催、教育関係職員録の編集
主任	山本由佳	札内中	所内・業務計画会議の企画、教育講演会、研究発表大会、管内所員研・道東研・道研連発表大会、共同研究、研修講座
副主任	籾山修斗	札内北小	教育研究相談、協力員研究、研究紀要、研究発表大会（発表）、学習指導資料「十勝の子どもの学力」、道研事業の連絡調整、研修講座、LINE 公式アカウント運営
所員	佐藤悠樹	音更中	広報誌「十勝教育研究」、共同研究、研究紀要、研究発表大会（発表）、研修講座、web サイトの企画運営
所員	中村俊太	鈴蘭小	共同研究、広報誌「十勝教育研究」、研修講座、道研連共同研究推進委員、LINE 公式アカウント運営
所員	千葉直哉	共栄中	協力員研究、広報誌「十勝教育研究」、web サイトの企画運営、カリキュラム支援センター、研修講座
書記	清水悦子	専任	庶務、会計、参考資料の管理